

なにゆえに飼葉桶なのか、その必然性

- 教会のクリスマスで必ず歌われる有名な讃美歌に「きよしこの夜」があります。

♪ きよしこの夜 星は光り
救いの御子は まぶねの中に
眠りたもう いとやすく



- また、このシーズンに必ず読まれる聖書箇所の一つに、以下の箇所があります。

【新改訳改訂第3版】ルカの福音書 2章 6～12, 16節

- 6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、
7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。
8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。
9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。
10 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。
11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。
12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。」
.....
16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。

●御使いは羊飼いたちに対して、「布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりご」—「これが、あなたがたのためのしるし」だと言いました。「しるし」は英語で言うと「サイン」(a sign)です。それはある事を伝える「合図」であり、「前兆」を意味します。ギリシア語では「セーメイオン」(σημερον)と言い、ヘブル語は「オート」(אֵיט)です。「飼葉おけ(「ファトネー」φάτνη)に寝ているみどりご」が、「あなたがたのためのしるしだ」と御使いは言いました。この「しるし」は、単なる表面的な意味だけでなく、より深い霊的な意味が込められていると信じます。これはどういう意味でしょうか。それは「飼葉桶」(新改訳 2017)に隠されているメッセージです。

●「布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりご」のイメージはさまざまです。「眠りたもう いとやすく」と讃美歌で歌われているように、眠っておられる幼子の場面を描いた絵や歌から印象付けられるイメージは、「かわいさ」や「ぬくもり感」が漂っています。しかし、「飼葉おけ」が伝えようとしていることは、その幼子が多くの人々から拒絶されるサインだということです。たまたま宿屋がいっぱいで、仕方なく家畜小屋で出産せざるを得なかったということではありません。イエシュアとその周辺に起こる出来事には偶然がなく、すべてが旧約からの必然性をもっているのです。

●聖書の中で「飼葉桶」について記されている箇所はわずかですが、とりわけイザヤ書 1 章にある「飼葉桶」が指し示しているメッセージは辛辣です。



【新改訳改訂第3版】イザヤ書 1 章 2～3 節

- 2 天よ、聞け。地も耳を傾けよ。【主】が語られるからだ。
「子らはわたしが大きくし、育てた。
しかし彼らはわたしに逆らった。
3 牛はその飼い主を、
ろばは持ち主の飼葉おけを知っている。
それなのに、イスラエルは知らない。
わたしの民は悟らない。」

【新改訳 2017】イザヤ書 1 章 2～3 節

- 2 天よ、聞け。地も耳を傾けよ。
主が語られるからだ。
「子どもたちはわたしが育てて、大きくした。
しかし、彼らはわたしに背いた。
3 牛はその飼い主を、
ろばは持ち主の飼葉桶を知っている。
しかし、イスラエルは知らない。
わたしの民は悟らない。」

【注解】

- ①「大きくした」の原語は「ルーム」(רָם)で、「高く上げる」ことを意味します。
②「イスラエルは知らない」(「ロー・ヤード」עָדָה לֹא יָדְעָה)、
「わたしの民は悟らない」(「ロー・ヒットボーン」
הַעַמִּים לֹא יָדְעוּ) –これが神の訴えの焦点です。特に後者は「ビーン」(יָדָע)の強意形ヒットパエル態で、自ら「悟ろうとする」「理解しようとする」ことを意味しますが、それが否定されているのです。

●このイザヤ書の視点から、「飼葉桶に寝ておられる幼子」を見ると、これから起ころうとする象徴的な光景が浮かんできます。とてもほのぼのとしたイメージにはなりません。ヨハネの福音書 1 章 9～11 節にこうあります。

【新改訳改訂第3版】ヨハネの福音書 1 章 9～11 節

- 9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。
10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。
11 この方はご自分のくににいられたのに、ご自分の民は受け入れなかった(拒絶した)。

●すべての人を照らすまことの光が世に来た時に、世はこの光であるイエシュアを知らない、また神ご自身が育てられたご自分の民であるユダヤの人々からイエシュアが拒絶されるというしるしが、ルカの「飼葉桶に寝ておられる幼子」なのです。

●イエシュアの誕生の八日目に、割礼を受けるためにイエシュアと両親がエルサレムに詣でました。その

時に、その幼子を抱いたシメオンはその幼子のうちに「神の救い」の全貌を見せられました。それはユダヤ人のみならず、異邦人にも備えられた救いの光であることを啓示され、神を賛美したのです。と同時に、幼子イエシュアに定められた受難を預言したのです。

【新改訳改訂第3版】ルカの福音書 2章 34～35節

34 また、シメオンは両親を祝福し、母マリヤに言った。

「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れ、また、立ち上がるために定められ、
また、反対を受けるしるしとして定められています。

35 剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人の心の思いが現れるためです。」

●このように見るなら、「幼子イエシュア」が寝ている「飼葉桶」は、神のご計画において必然的な意味が隠されていると言えます。そしてそれは神のご計画とみこころ、そして御旨(神の喜び)と目的と深く結びついた隠喩だと言えます。

●果たして、イエシュアを通して語られた神のみおしえ、すなわち「御国の福音」を私たちは正しく理解しているのかどうか、そのことが今日のキリスト教会にも、また一人一人のクリスチャンにも問われているのではないのでしょうか。かわいい、すやすや眠るイメージからはその問いかけは出て来ないように思われるのです。

●最後に、イザヤ書 1章 2～3節にある主の訴え(告発)を七十人訳ギリシア語聖書(秦剛平訳)からも引用しておきたいと思います。

2 天よ、聞け。

地よ、耳を傾けるのだ。

主が語られるからだ。

「わたしは子らを育て大きくした。

しかし、彼らはわたしを無視した。」

3 牛はその飼い主を知っている、

驢馬はその飼葉桶を(知っている)。だが、イスラエルはわたしを知らず、

民はわたしを理解しなかった」と。

●物言わぬ動物でさえ分別があるのに、神の民は悟らないという驚くべきメッセージが「飼葉桶」に象徴されているように思います。イエシュアが誕生した時代の神の民(ユダヤ人)は、イザヤが預言した時代の人々と何ら変わらなかったのです。神の律法を重んじるパリサイ派や律法学者たちは、神のみおしえを禁止や規則や罰則に変質させて、それらを用いることで、民衆を支配する道具としていたのです。これは神の側からすると大変な事態となっていたのです。それを変革すべく神の最後の切札として遣わされたのが、御子イエシュアだったのです。